

1580
 320

 26

2600
 1618

 615

備る者には
 佛の助け
 270
 190

 360
 26

 68

○山陽の報。日外史高綱宇治川先陣の條
 高綱超衆して過ぐとあり此なり。超字は
 孟子拔泰山而超此海の例をえりし
 ○作史の條。南陽得幸ニ、二枚の
 又載す

○兩月物語菊池の起りの出所。後漢の范曄の故
 事(日記抄より大倉四廿五)
 ○太山寺春甚。都東部が唐の馮白之の機詩
 を載せしを載す。愚考を以て續文章軌範に

順記
 天田
 一八、由三九

○紫苑
 ○芙蓉
 ○萩王
 ○新能
 ○栲樓
 ○女郎花
 ○黄蜀葵
 ○葵

春
 雨
 如
 也

○月見
 ○芙蓉
 ○芍薬
 ○玉簪花
 ○カニナ
 ○萱草
 河原村子

三・四六五
 九
 九町
 359
 15
 365
 2000
 365

 635

900
 965

 535

1304
 730

 564
 300

 864

1600
 2009

 18

中十問
 思
 物

①

古風人物巻

(未二巻のつゝ掃名録なまより)

②

古風人物巻

③

古風人物巻

④

古風人物巻

新交執事

松本節子

明治三年

○学則

○新刊のり所

○和蘭船の回りに刻

○政方世の人

○坪御

○昔の調中

○井小の

○井子系

○大

○吉

○

○

田天王
御
御

御
御
御

御
御
御

御
御
御

御
御
御

御
御
御
御
御
御

○定通之令

此等物は下

借尸肉を割子

三五〇

○印打を

物にありて

元文を

五九二

○ある物にあり

及作死人

○昔より又

臨堂者五一人

由来不變 少一少

○海賊

續一乃... 大... の部

神人

日... 成ニ

少三ノ才

字欠

大和物語

義經記奥列本
 衣川合就の事
 安永三年乙亥正月廿七日
 以水戸新考跋古抄本謄之
 并後編成校
 右史籍每覽
 史料叢書より
 一七三、一七四
 月三十一日

信州神平
 依田左五郎
 異部支那の乳突・朱光
 信州神平
 依田左五郎
 二十九年
 二十三年

何はあまのつと大夫のすけとおつげとめ三つあまの
 う一手あつたたるたのゆあへおしよせたるア
 今頃のうつあいのかなる者にとつたれはやす
 ひるか家の子には長崎太郎大夫といつたアけた
 そごど判友殿かほうまうてせめえやすみらに
 しきこなんどとあんいなるうさこの軍をえ
 もあといあづまのふかのやうけらかぶるも
 けしん向ひらをひたり矢をころにかつたいと
 ほうこうもたつ

病の
 病の

病の

レイロクサシノタウシハテウヤカモヘキソワン
 鏡、鏡山 遊人 長野 下部 鬼丸
 (あたま死十八、遊龍山遊遊遊遊事)

〇并財天をけしん
 附夜遊地物
 想山塔(近を多後今集四八一)

〇増鏡。塔の下水

濕 熙
 〇増鏡。塔の下水

廣河女王

悪者を力軍とて七車つぎをあらはく
吾の心こころ
新ははらあらしとあらはらむしと
何事のあらはらむしとあらはらむ

野史 五十七、三丁

拜納寛永元年六月十日

弓削白土の御殿秋田季次字牛而白令

〃 〃 五丁少

在る山形新殺井上白就干塔の中

〃 〃 のおもひなり

〇 男子世くして他人の子を継とすし礼法を生かす

弟一とくこころを

弟二 弟那須源兵衛 三女をりて男世く、白川持姫殿御の子

源永を養つて之を妻し、好室子源久出で、

源久を長とて源永とてさしめんを、源永のよめ

源久教へし、源永し白教たり

ゆゑなりとの友とて

血 無 罪 依

長岡寺村の由月。抱角前標由月白能

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

$\begin{array}{r} 1642 \\ 495 \\ \hline 1147 \end{array}$	$\begin{array}{r} 1642 \\ 921 \\ 5 \\ \hline 821 \end{array}$	$\begin{array}{r} 1642 \\ 496 \\ \hline 1150 \\ 35 \end{array}$	跡使 六冊 一六四二
$\begin{array}{r} 1642 \\ 495 \\ \hline 1147 \end{array}$	$\begin{array}{r} 1642 \\ 821 \\ \hline 5770 \end{array}$	$\begin{array}{r} 3000 \\ 500 \\ 250 \\ 2 \\ \hline 5770 \end{array}$	
$\begin{array}{r} 1642 \\ 495 \\ \hline 1247 \end{array}$	$\begin{array}{r} 1642 \\ 5295 \\ 5 \\ \hline 5735 \end{array}$	$\begin{array}{r} 2475 \\ \hline 8245 \end{array}$	
$\begin{array}{r} 1147 \\ \hline 5295 \\ 5 \\ \hline 5735 \end{array}$	$\begin{array}{r} 1642 \\ 495 \\ \hline 197 \end{array}$		

野史
 色利
 卷元
 已以治兵為後也
 生抽
 首
 骨
 髓
 如
 百
 絲
 一
 提
 歸
 陣
 學
 一
 跡使
 造
 一
 百
 六
 十
 回
 滿
 部
 得
 報
 典
 朱
 頭
 故
 事
 跡
 使
 七
 十
 卷
 二
 十
 丁
 才
 京
 師
 并
 方
 世
 一
 回
 一
 枚
 目
 九
 之
 觀
 の
 何
 の
 事
 の
 あり
 の
 事
 也

一
 百
 三
 十
 六
 一
 十
 二
 七
 九

野史 第六册

一六四二

四九五 前七月廿五日
打年 (二四七五)

一四七五 后九月廿五日
打年 (五七三五)

一七〇〇〇〇

三〇〇〇〇 一七三五〇〇

五〇〇〇

一四五五
六〇〇〇

1735
573
<hr/>
2308
1730
573
<hr/>
2460
2600
<hr/>
506

一七五七三二〇
一七五七三二〇
六〇〇〇
一七五七三二〇

1500
90
<hr/>
1600
256
2160
<hr/>
546

原用紙 九月廿五日 千枚 打年

系 系 回 十 子 枚 張 子 尺 寸 寸

系 系 回 十 子 枚 張 子 尺 寸 寸

然 當 軍 旅 一 則 若 火 華 也 自 揚 手 提 把

槍。案 回 何 等 他 子

路 史 百 六 十 八。回 十 六 下

乳 哺 帶 不 帶

〃 〃

○ 孤矢將軍何謂不勝
略史百六十八卷四十五少
玄龍宮後御時の事

○ 葛高
略史百七十八卷十三丁、

○ 勝泣
〃百七十八卷。二十二丁

○ 釣橋
〃百五十三、十五丁

○ 柳子口刃皇者餘、
略史百十四、二十二

○ 次を移す
略史百十五、三六

○ 不率軍制
〃百十五、四十三少

○ 常通員幕搭
〃百九十九、五丁

○ 坐公一斯後門止所皂子之事
〃百九十九、五丁

○ 稀油
略史二百四十一

○ 紙筥術・竹監仔
〃〃〃〃〃
かっ (仔細)

○ 粉壁麻塙
〃〃〃〃〃
小き土手 (村)

○ 詭病
〃〃〃〃〃
〃〃〃〃〃

○ 獨何興
〃〃〃〃〃

定諷瀧打

邦史二五二十一。四十九丁少

東照宮ヲ徳川氏卜書ケル例

本多忠勝傳(二五二十三處)七丁村

疑或避諱

邦史卷二五二十八。十六丁

云恰云恰

邦史二五四十七、三十七丁才

耽誤

邦史二五五十。二十七丁才行

陸舟説

邦史二五五十一 慢寄傳

幹父忠重

二五五十一、十一丁
子木菴、一使之奉仕

暨拂拈超

二五五十三、二十七丁才
前(おもしろ)

(佛敎的)

邦史二五四卷三十三丁少 信長命使北畠城主館色

如名供儀

每逢大比
二五五十四
二十九丁少

寄目 陸史二卷の十二、
二十六丁

紀字 〃〃

然鏡果壯至。則日夜練兵甲 〃
二卷の十二卷二十六丁

嘯通海上 〃
二卷の十二 三十三丁

義鳥兵 〃
二卷の十三 三十八丁

遠東馬君 〃
二卷の十三 四十三丁

春訊 〃
二卷の十三 四十五丁

細打 細織也 〃
二卷の十三 四十一丁

種人 〃
二卷の十三 四十一丁

開封學 〃
二卷の十三 四十三丁

蒙畏 〃
二卷の十三 四十四丁

魁柄横操 〃
二卷の十三 四十七丁

所政流軍金馬靴全副少引區 〃
二卷の十三 四十七丁

權騎兩省 〃
二卷の十三 四十七丁

書副書 〃
二卷の十三 四十八丁

（弘文館序）

樹 〃
二卷の十三

二卷の十三 四十八丁

録時

二五丁
十丁

數奇陽九。逆開披猖

二五丁
三十一丁

環樓

在

其葵心是抱、其血胸

三十三丁

日在踏銅

三十八丁

有及張魯師恩之數字

二五丁
三十七丁

真是七日而混沌死矣

二五丁
四丁

乘軟兜

五丁

不備歸家

卷二五丁
四十六丁

~~○數~~

那史杉浦
後也義一好子

○賊の備は

○与崇と茶室

○由は二穀石も

○油子依松

○女身何積

○お寇競

○氣固く

の備を固くして居る
 の心算を我を操へん事にして
 と是れ我の且て居る
 の物とて二股を投し(四)物ハチを穿ぬ
 の心算の備を修め、備ひ(七)たす

ひとつ 人もなげなす軍が
 ありつ 毎に立てぬ日本と誰か
 みつ 脚國の事か明はたとなり
 ありつ かくも世の軍して諸君の感激ど
 ありつ 一つもしも一はは油断の外は
 ありつ 忠も生かすは惜むぬ
 ありつ 何の徳識なくせに建
 ありつ 山本五右衛門の事か
 ありつ 元氏等つる馬を思ふ
 ありつ 東條英様は英の機で日本
 ありつ 國建を

の己の物か

國建を

芳根 都組

- 1 森田 孝一
- 2 〃 〃 〃
- 3 〃 〃 〃
- 4 古谷 三重
- 5 田中 昇作
- 6 森田 勝彦
- 7 梅田 禎子
- 8 松園 全
- 9 森田 芳和
- 10 田中 龍彦
- 11 松園 全
- 12 永島 山一
- 13 大高 二子
- 14 川城 三子
- 15 永島 山一
- 16 渡邊 道幸
- 17 後進 誠一
- 18 菊池 芳一
- 19 高橋 繁三
- 20 神田 隆彦
- 21 中山 芳彦
- 22 志田 一彦
- 23 本多 増彦
- 24 松園 義二

25 前川 第二
 26 浅井 童子
 27 碓氷 碓
 28 碓氷 碓
 29 内宿 万次郎
 30 遠藤 女子
 31 津山 又司郎
 32 大門 西衛

碓氷

33 石川 由緒
 34 小倉 女子
 35 森田 周郎

以上

鶴牧 股史記
 杜詩 集注
 莊子 三注 大全

五色 評本 杜詩
 関刻 莊子

〇 愚 徳
 おいし
 ひさかた
 おさきり

江任為

潘佑

三韓熙載 (二十六)

左偃 (三十一)

三沈彬 (三十一) 徐仲雅 (四十一)

成老雄 (四十一)

三薛拯 (四十一)

三孫勳 (四十一)

三任翻

劉岷 (四十一)

李凝 (四十一)

江為 (四十一)

任翻 (四十一)

潘佑 (四十一)

成老雄 (四十一)

李拯 · 薛崇玉 · 荆叔 · 胡宿

李拯 · 薛崇玉 · 荆叔 · 胡宿

映屋到柳既刊

三喻鳥

二喻坦之

三五李善美

李郢

三六李頌

三六李昌符

三六李山甫

三六羅鄂

三五劉威

三五劉得莊

三五

馬戴

三五

于武陵

于郢

于瀆

王道

李元卿

李元卿

三六司馬札

三六司馬札

三五斯

三四

趙凝

三四

喻坦之 (四十一)

于郢 (四十一)

于郢 (四十一)

于郢 (四十一)

儲嗣宗 (三十一)

曹唐 (三十一)

曹鄂 (三十一)

許棠 (三十一)

三六司馬札

三五斯

三五斯

1000
929
1000

唐詩正聲 七十一首

七絕 此合 咸陽城東柳 七絕 卷編 七絕 卷編 卷編

李賀 李賀 李賀 李賀

李賀 李賀 李賀 李賀

杜甫 西窗黃鶴

許棠 李鄴 謝埤

1000
929
1071

929
171
1000

唐詩正聲

作者一三七名
詩數九二九首

右外十一首 遺之 一千首 十 十 已

人 於 一 八

韓愈 五 呂溫 五 盧仝 六 白居易 八 李賀 一

薛逢 三 薛能 五 李鄴 六 皮日休 七

方干 三 羅隱 三 胡常 八 韓偓 一 齊己 一

李翱 八 李德裕 八 陸龜蒙 一 韋諷 一 黃拱 一

劉餗 伯 包佶 郭良 呂純陽 梁銍

卷編 卷編 卷編 卷編

○ 梁文の... (抄本)

○ 壬申ノ乱... (抄本)

○ 古の本... (抄本)

○ 碓礮...

定文...

十村...

○ 書... (抄本)

○ 韓愈

南山詩 五古 百二韻

壬申

張旭石記... 楷書

京都... 刻

○ 金...

京都... 刻

○七言绝句
绝句歌送
醉阵吟格
锦锦破
白凤可也
中华若木吟

○律
儒童律以
唐韵英舞
五言一四七五七
七言一四三二七

○五言绝句
文天祥集秋
一程百首(五七)

三绝诗选七绝

杜牧
戴叔伦
李商隐
徐凝
王维
许浑
李远(李唐五言)
李颀
李颀

李商隐
柳宗元

風 廿一、十二、十五

在天黑雪散於地紅蓮翻
竹繞強偉嘯 世學到子來

携手雙鯉魚
目送千里雁

杜蘅 馬蹄香又細辛

5438

浮舟如原の音也と同綴
唐元和會李勣送孫少府、兵至懸孤城被
半雪甚、身有秋晴池、想令鷗鷺擊之
以過舟也

綱師園唐詩卷 43 廿二首
孝子麟唐詩卷 四百六十五首
唐詩 5438 九百九十九首

寧 悲 遊 送 閑 獨 野
 婦 愁 慨 別 石 坐 望

胡 明 昭 音 高 行
 和 如 君 符 堂 政
 十 曲 怨 序 雜
 八 拍

魚 天 日 控 天 魚
 如 津 心 石 津 如
 一 之 之 之 之 之
 十 九 十 十 十
 二 二 三 四 五
 枝 枝 枝 枝 枝
 枝 枝 枝 枝 枝

以上

6	1.5
60	15.0
	1.5
	16.5

楊震曰
 人可
 知者
 卜

○ 历史统系读法

- (一) 福国策选 再读
- (二) 日本书纪
- (三) 晋书
- (四) 管子
- (五) 庄子
- (六) 荀子
- (七) 淮南子
- (八) 鬼谷子

- (九) 列子
- (十) 老子
- (十一) 庄子
- (十二) 荀子
- (十三) 墨子
- (十四) 韩非子
- (十五) 吕氏春秋
- (十六) 淮南子
- (十七) 史记
- (十八) 汉书
- (十九) 宋史
- (二十) 元史
- (二十一) 明史
- (二十二) 清史

○ 第二章

- 一 脑髓中、脑膜、出血
- 二 物性内硬脑膜壳
- 三 硬脑膜后陷室、空囊及突性
- 四 急慢性脑膜炎
- 五 流注性脑膜炎 (伴发梅毒)
- 六 结核性脑膜炎 (伴发梅毒)
- 七 延髓、脊髓
- 八 延髓、脊髓 (古臂、喉肌麻痺)
- 九 脊髓、脊膜
- 十 脊髓、脊膜 (脊髓、脊膜)

耳和性疾患

(一) 全部完全性新

(二) 不全性新

(三) 耳和性新

(四) 耳和性新

耳一 耳部外伤

耳二 耳部在道 (在道性耳部)

耳三 耳部出血 (耳部卒中)

耳四 耳部及其部眩暈痛

耳五 耳部炎

耳六 多发性耳部炎

耳七 耳部内腔炎

耳八 小兒急性耳部前角炎

(耳部性小兒性)

系 耳部炎

耳一 耳部炎 (耳部炎)

耳二 遺傳性運動失調症

耳三 フリードランド氏病

耳四 慢性耳部炎 (慢性耳部炎)

耳五 耳部炎 (耳部炎)

(耳部炎)

甲 筋萎弱 性倒 止 未 使 化
乙 筋 萎 弱 性 倒 止 未 使 化

(甲) 筋 萎 弱 性 倒 止 未 使 化
筋 病 性 逆 行 性 筋 萎 弱

(一) 何 性 筋 肥 大

(二) 筋 性 逆 行 性 筋 萎 弱

(三) 筋 性 逆 行 性 筋 萎 弱

(四) 筋 性 逆 行 性 筋 萎 弱

(五) 筋 性 逆 行 性 筋 萎 弱

(六) 筋 性 逆 行 性 筋 萎 弱

脊 髓 神 經 衰 弱

甲 一 筋 性 逆 行 性 筋 萎 弱

甲 二 筋 性 逆 行 性 筋 萎 弱

甲 三 筋 性 逆 行 性 筋 萎 弱

脊 髓 友 姓 的 衰 弱

脊 髓 友 姓 的 衰 弱

脊 髓 友 姓 的 衰 弱

甲 五 筋 性 逆 行 性 筋 萎 弱

筋 性 逆 行 性 筋 萎 弱

筋 性 逆 行 性 筋 萎 弱

筋 性 逆 行 性 筋 萎 弱

升二 眼每痛
 升三 舌下每痛
 升四 指隔膜每痛
 升五 核身每痛
 升六 口中每痛
 升七 足骨每痛
 升八 舌又每痛
 升九 背每痛
 升十 望身每痛
 運神每痛

升一 欬每痛
 升二 吐每痛
 升三 眼每痛
 升四 舌代性指隔膜每痛
 升五 此每痛
 升六 知覺每痛
 升七 升一每痛
 升八 甲每痛
 升九 乙每痛
 升十 三又每痛

(拘每痛)
 (吃每痛)
 (痛每痛)

- (一) 頸後頭痛 (後頭痛)
- (二) 頸部疼痛
- (三) 胸部疼痛
- (四) 腰腹疼痛
- (五) 股部疼痛
- (六) 坐骨神經痛
- (七) 手足麻痺
- (八) 半身不遂
- (九) 癱瘓
- (十) 偏頭痛

升二 知覺喪失

炎性及非炎性神經變化

升一 神經衰弱

升二 中毒性神經衰弱及多發性神經炎

慢性神經衰弱 (鉛中毒麻痺)

升三 傳染性神經炎 (腳氣)

升六 癩癧及神經痛

升一 粘液性神經

升二 ハセー ド氏病

日才七重 神至首 官能の病

才一 肺病

才二 急智

才三 テタニ

才四 書癡

才五 舞踏病 (小舞踏病) シーテニ公氏

舞踏病

才八 チック病

才九 アテトシニス

才十 震顛麻痺 (ハルキニシ氏病)

才十一 船暈

才十二 エルリエー氏眩暈 (岩下氏病)

才十三 トムセ之氏病

才十四 歌斯の病

才十五 神至衰弱病

以上

〇ニニニニ
 〇里竿
 〇胡瓜
 〇茄子
 〇ト
 〇合
 〇豆 二、八の大豆 二、十。赤山豆 十、十一
 〇葉。十、十四の緑豆 十、十四
 〇朝顔
 〇米市裏花
 〇薄荷 十、十九の本紙 十、廿五

甲 十二腸 寄生虫
 乙 寄生虫
 丙 寄生虫
 丁 リンゴ 寄生虫
 戊 寄生虫
 己 寄生虫
 庚 寄生虫
 辛 寄生虫
 壬 寄生虫
 癸 寄生虫
 甲 寄生虫
 乙 寄生虫
 丙 寄生虫
 丁 寄生虫
 戊 寄生虫
 己 寄生虫
 庚 寄生虫
 辛 寄生虫
 壬 寄生虫
 癸 寄生虫

玉蜀黍 卷二 八
大豆 十
赤豆 十一
蚕豆 十二
豌豆 十三
豇豆 十四
刀豆 十五
胡麻 十六

卷三
蘿蔔 一
蔓菁 二
芋 三
胡蘿蔔 四
茄 七
黃瓜 十
南瓜 十一
絲瓜 十二

卷四
苧麻 一
苧 二
苧 三
苧 四
苧 五
苧 六
苧 七
苧 八
苧 九
苧 十
苧 十一
苧 十二
苧 十三
苧 十四
苧 十五
苧 十六
苧 十七
苧 十八
苧 十九
苧 二十

芥 卷五
蕪菁 二
蕪菁 三
蕪菁 四
蕪菁 五
蕪菁 六
蕪菁 七
蕪菁 八
蕪菁 九
蕪菁 十
蕪菁 十一
蕪菁 十二
蕪菁 十三
蕪菁 十四
蕪菁 十五

卷六
芥 一

卷八
梅 二
梨 四
柳 七
楊梅 十
柑 十一
夏客柑 十二
柚 十三
枸橼 十四

卷九
杉 一
杉 二
杉 三
杉 四
杉 五
杉 六
杉 七
杉 八
杉 九
杉 十
杉 十一
杉 十二
杉 十三
杉 十四
杉 十五
杉 十六
杉 十七
杉 十八
杉 十九
杉 二十

鷓鴣 = 卷十

牡丹九

芍藥十

○ 亭午子 十三

山藥十四

○ 芍藥十五

木賊 廿五

石坡文源

本車詩

雲溪友議

蓮坡詩話

○ 遊仙宮

義經記

義經磐石傳

白樂天詩選

儿丸傳 妙義山之條

謡曲

西京雜記・後部四傳 東國觀記

少倉書法 羅傳

尚書・周易・屯卦・楚辭

山房雜記

下	上	統	辞源丁数
242年	16首	14首	總数四千七百二十丁
206未	416子	246子	
192申	280丑	146丑	
278酉	262寅	124寅	
260戌	198卯	122卯	
156亥	224辰	128辰	
52	260巳	138巳	
22		144午	
4	計一千六百五十六丁	120未	
128		102申	
計一千四百三十二丁		198酉	
		196戌	
		98亥	
		12	
		62	
		8	
		18	
		10	
		12	

愛国工業株式会社工員

千野光
菊地勇
丸山恭治

朝日 十月七日(現行三月)
 あり 五月(現行)
 のみ 五月(現行)
 キンシ 六月(現行)
 一月(現行)
 改訂の旨は既述
 五月(現行)

お茶小書一

千巻

西宮 午後

三時十八分
五時十分
七時十分
終

昔書

五 昭和十一年十二月

草の系

三 昭和十一年八月五日

幻の歌

一 昭和十四年四月一日

幻の歌

二 昭和十六年二月一日

昭和十四年

秋行 10巻 瑞 上(回) 昭和十五年十月 岩波

孝女集卷五

山上憶良神病自衰文に同く、
孝女集に同く、とあり。

九采下人一課子道

孝女集の卷三十四丁に孝女評云、
九采下人、
孝女集

下人、
孝女集

十娘曰、五娘、
孝女集

和名、
孝女集

宮教、
孝女集

山、
孝女集

又、
孝女集

又

更、
孝女集

圓、
孝女集

又、
孝女集

可、
孝女集

唱、
孝女集

孝女集、
孝女集

孝女集、
孝女集

孝女集、
孝女集

孝女集、
孝女集

孝女集、
孝女集

事物類 卷之三 三七四頁

はらばら校長校を神九郎

新編 新編 二十の夏

此の家の訓は全く他人の口授を受けず
そののふらと書き入れて行つたものに相違
ない

新編 二十丁

朧 月不夜也・少文キヨ

朧 月

朧 原不朧

朧 月次明也

あかつかん

朧 月 言 明也
王延 野の 財 財 燿 燿 燿 燿 燿 燿

後原

八分風袋 二石文

十五尾 一豊二石 五十文

梅の糸 ^子は 梅のちりとも ^大勢

梅の糸 ^子は ^梅のちりとも ^大勢

梅の糸 ^子は ^梅のちりとも ^大勢

梅の糸 ^子は ^梅のちりとも ^大勢

梅の糸 ^子は ^梅のちりとも ^大勢

七ふまめとおおしは
いかにいかに

渡清

向島より別水の鯉句
北京賓館の秋の風をきて
迎査怪おす
御所の物も手紙

病氣 京都大学講義報告

詢京

京都で貸屋探し 田中

室永劉太子 錦光山 軒旒

下婢のくまの娘も。牛舌

○伯吉伯孝文病床。下婢をやる一人エヤウリコ

来訪者

池邊義典。湯浅吟月

我園ゆり庵 若村三郎の器楽

池邊水島信の女将

↑
京大の講義報告書
焦心處
近江八景見物
一人エヤウリコ

夕暮時

詠多様。饅頭保首像。法華經

来訪者 室永劉太子

池田昭彦。土田重四郎

えびの述懐

病状日誌

四月十日 注射一回

十三日 依然苦し

十四日 少くは、口を

十五日 痲痛、散、但し全身不快

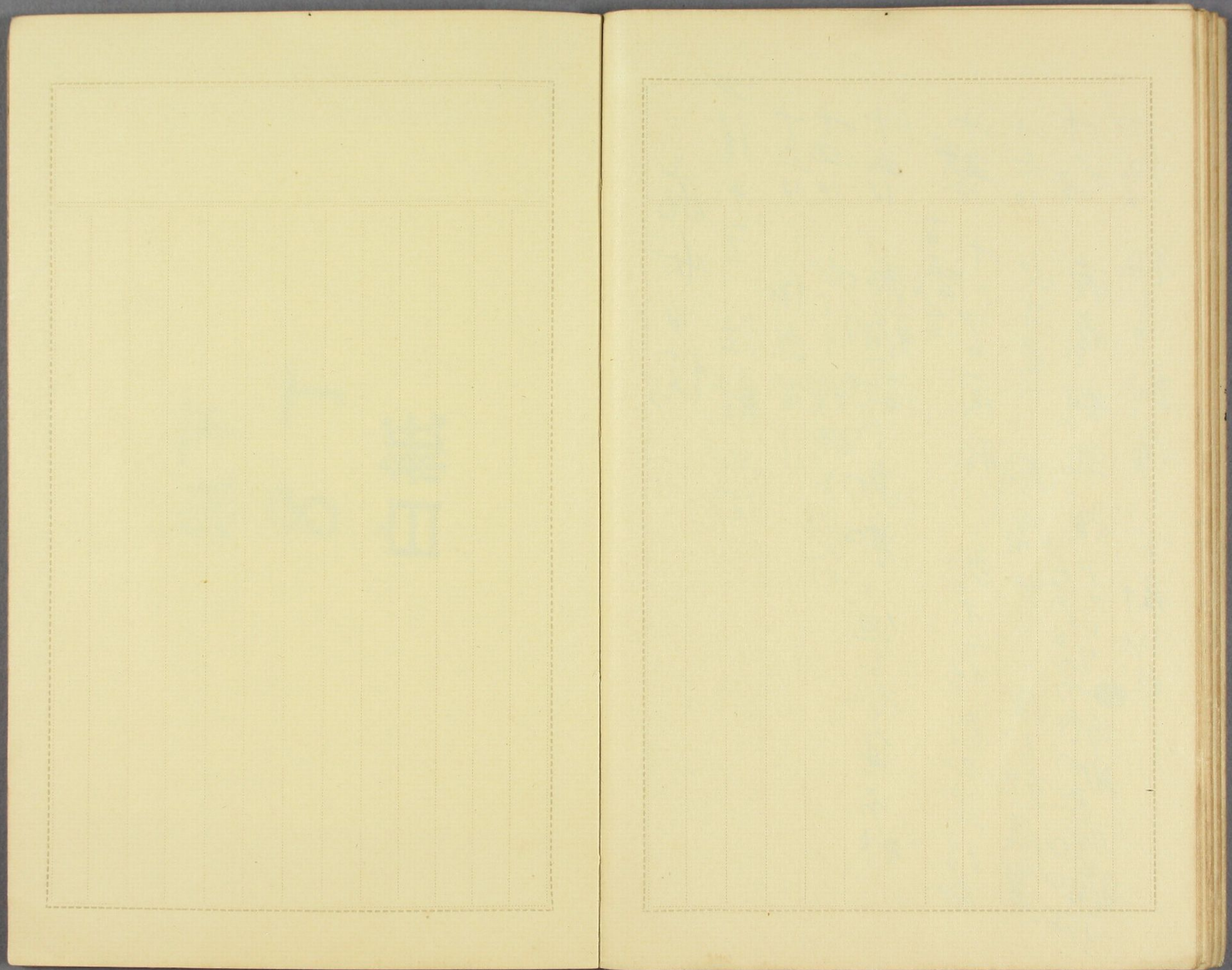
を感す

十六日 十二日と同様、診亦西便かんたん

十七日 文子来ん、痲痛少しく減い、起長業

十八日 痲痛劇烈、夜Pのり、夜痲痛少

十九日 朝より劇痛、舌痲依然



以下
8 丁
白紙

山に夏虫刺す程の酷死を歎かして

あつてはしりて飢ゑし昔の二人よして

わして一人の (野山) 人

やちぢらう ^{いせ} ^{おな} ^{のりま}
二千の ^{いせ} ^{おな} ^{のりま} 法守る

大人 *大人* ^{いせ} ^{おな} ^{のりま} なる共しう井之氏ハ

平均 0.04 (阿比) 平均 1.00 - 1.00



TOKYO

TORODO